

みんなで支えあう 国民健康保険

社会保険への被扶養者認定手続きをおすすめします

現在、国保に加入されている方で、世帯の中に勤務先の社会保険に加入中の方がいる場合、次の基準に該当すると、被扶養者として社会保険に加入できることがあります。該当する方には、被扶養者認定の手続きをおすすめします。

ただし、勤務先の社会保険によっては扶養の認定基準が異なる場合もありますので、あらかじめ勤務先での確認をお願いします。

○社会保険等の扶養になった時の利点は…

国保は被保険者の人数によって保険料が増減しますが、社会保険は新たに被扶養者が増えてもこれまでの保険料が増えることはありません。

○社会保険等の被扶養者と認定される基準は…

- ・主として社会保険に加入されている方の収入により生計を維持されている親族
- ・60歳未満の方は年間収入が130

万円未満であること

- ・60歳以上の方、もしくは厚生年金保険法による障害年金等の受給をされている場合は年間収入が180万円未満であること

- ・社会保険に加入されている方の年間収入の2分の1未満であること
- ※公的年金・失業等給付も年間収入の対象となります。

○社会保険等の被扶養者に認定されたら…

国保の喪失手続きが必要になります。

- ・新しく被扶養者と認定された健康保険の被保険者証
- ・国保の被保険者証
- ・印鑑（朱肉を必要とするもの）

- ・窓口で手続きされる方の本人確認ができるもの（写真付きのものは1点、それ以外のものは2点）

・窓口に来られる方と健康保険の手続きが必要な方の個人番号（マイナンバー）がわかる書類
をご持参のうえ、住民課保険年金担当へ届け出てください。

◆問い合わせ先 住民課 保険年金担当 ☎0748-52-6584

感雑向綿

— 2019年12月 —
日野町長 藤澤 直広

鎌掛地区の「ふるさとの絵屏風」が完成しました。中学生や高校生を含む実行委員会の皆さんが約1年かけて作成されました。耕運機、

手植えの田植え、稲のはさがけ、結婚式、亜炭鉞、オオサンショウウオなど昭和30年代の懐かしい風景や民俗が描かれています。当時の燃料は割り木に柴が中心。木を切り、枝や松葉は柴に結び、幹は短く切って割り木に。小学校の頃から斧を使って割り木にしていました。茅葺屋根の屋根裏のツシに柴と割り木を吊り上げ貯蔵しました。風呂焚きは子どもの仕事でもありました。NHKの朝ドラ「スカールレット」でも子どもが風呂焚きをするシーンがあります。ちなみに主人公の川原喜美子の友達の通っている高校は、ロケで旧鎌掛小学校が使われました。主人公は信楽で陶芸家になります。信楽焼きを焼く窯には割り木が燃料として使われます。まだ改良されていない国道307号

線の「七曲り」といわれる坂道をトラックに割り木を満載し運んだこともありました。信楽は、奈良時代の一時期（740年代）、紫香楽宮という都がおかれ、信楽焼も鎌倉時代頃から発展してきた、歴史と伝統のある町です。

ところで、日本弁護士連合会が平成の合併による町村の人口推移を検証、同じような地域・規模の町村を比較し、合併した町村がしなかつた町村より人口の減少率が激しいことを公表しました。国の「地方制度調査会」で議論されている「近隣市町で構成する『圏域行政』」は、合併に似ており小規模自治体の衰退につながる警告を発したものです。全国町村会も事実上の合併につながるとして法制化に反対しています。ちなみに旧信楽町の人口は、合併した平成16年と現在を比較すると20%の減。日野町は7%の減です。日野町の人口は今年度になり微増、仕事による転入が増えていることが要因と考えられます。全国には人口1,000人以下の村もあります。それぞれの地域の個性を生かし、元気な町をつくる為に力を合わせたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字鎌掛 その2

原始から中世の史資料の数は限られますが、残された文化財を丁寧に見ていくと、当時、鎌掛に生きた人々の強い想いを十分に感じることが出来ます。

中世の人々の想いを伝える 様々な文化財

藤の寺として知られる正法寺には、平安時代から鎌倉時代にかけて造られたと考えられる2躯の「木造天部像」が伝えられており、町指定文化財となっています。同じく正法寺の大日堂には、天文13（1544）年に造られ、元禄12（1699）年に修理されたという墨書が残る木造大日如来坐像が伝わります。そこには年号とともに、施主の名や修理した際の願主の名などが記されており、信仰に対する想いの一端に触れることができます。

一方、正法寺の本堂東側の斜面には、国の重要文化財に指定されている蔵王の米石で造られた石造宝塔があり、背後に「正和二年 大戈乙卯十二月 参日願主一結敬白」と刻まれています。この中の「一結」とは、人々がこの寺院をよりどころとして、組織していた一定の集団を意味しており、個人だけではなく、「村」としての想いが込められた文化財であることがわかります。



正法寺石造宝塔

多くの謎を秘めた鎌掛城跡

正法寺の北に位置する城山一带には、町内で最も高いところ（標高

373・8メートル、麓からの高さ約155メートル）に築かれた鎌掛城跡が残っています。山頂からは雪山や八幡山といった城が築かれた山を見渡せるほか、遠く琵琶湖まで見通すことができます。

城の遺構は、山頂から西側の山麓一帯にかけて複数の曲輪（城内の平地部分）が設けられており、岩盤を削って造った土塁や堀、石組みの井戸跡なども良好な状態で残っています。これらの遺構を観察すると、中世後期の戦国時代に築かれた城であると考えられる一方、これまでどころ、築城から使われていた当時の記録が全く残っていない謎の城でもあります。

蒲生氏ゆかりの城という伝承

鎌掛城が書物に登場するのは江戸時代になってからのことで、しかも断片的です。例えば、創築は建武2（1335）年で、文亀2（1502）

年頃、蒲生秀行が修築し、家臣を入れ守備させたとされます。さらに大永3（1523）年に音羽城で敗れた蒲生秀紀が鎌掛城へ退去し、大永5年に暗殺されたこと、蒲生賦秀（氏郷）に家督を譲った賢秀がこの城に隠居したことなどが記されています。しかし、他説を記した書物も含め、これらはあくまで伝承の域を出ません。

興味深いことに、廃城後の延宝年間（1673～1681）には、蒲生家家臣の子孫と称する人々が山麓に住んでいたと伝えられ、その時期と考えられる遺構も確認できます。このように鎌掛城跡は、遺構とともに、この城にかかわった多くの人々の想いが、記録ではなく記憶に残った城と言えるでしょう。



西から見た城山（鎌掛城跡）の全景